

【神流町】  
校務 DX 計画

1. 校務 DX の現状と課題

令和6年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本町の現状は、群馬県全体の平均と同等程度となっている。

校務 DX の取組状況については、学校内、教職員と保護者間の連絡については、管内のすべての学校2校が完全にデジタル化を取り入れているが、教員と児童生徒との連絡は、完全にデジタル化している学校が2校中1校のみにとどまっており、改善の余地がある。

校内での資料共有・情報共有のデジタル化においては、汎用クラウドツールを導入済で、校務システムは未導入である。また、保護者と学校の連絡体制においては、連絡アプリが積極的に活用されている。ペーパーレス化に努めているが、未だ紙の文書も多いため、今一度見直し、デジタル化への検討を行っていく。また、導入済の汎用クラウドなど、既存ツールのより有効な利用方法などを検討するとともに、他の有用なクラウドツールがある場合には導入に向けて検討を行う。

2. 校務 DX を推進するための課題解決策

令和7年度より、県域共同調達で学校デジタル基盤(校務支援システムと汎用クラウドツール)の導入が検討されている。本町では令和8年度の参画に向けて検討を行う予定。

県域のデジタル基盤に参画することで、校内、学校と保護者間、学校と児童生徒間のデジタル化の基盤が整備されるとともに、県域で活用事例や先進事例が共有され、本町でもそれらを取り入れることで教員の多忙化解消等に資するためのデジタル活用を積極的に進めたい。

また、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因である FAX や押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの制定や、要録の電子保管等の課題についても、県域の事例を参考として検討を深める。